
[痛ミ之少ナヾ世界]

嘩月 - ka「d/z」uki -

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「痛ミ之少ナキ世界」

【Nコード】

N3322L

【作者名】

嘩月 - k a 「 d / z 」 u k i -

【あらすじ】

- - - - -

目覚まし時計の音、いつもの時間通り。
意味不明の砂時計、今日も砂を落としている。
それに何も抱かなかった。

日常で歩いていた道は、果てしない闇のようで。
俯いて、立ち止まった。
いつまでも、永遠のように。

見えていた未来、生きる人々。
どの人も瞳に力は無くて。
恐かった夜、自分も消えそうで。
浮かぶ太陽、光りが体を焼いた。

同じ朝と時計針、朝日に何も思わない。
置いてある砂時計、繰り返す経過の瞬間。
それが何か知ろうとしない。

立ち止まって見ている場所は、果てしない終りのようで。
逃げ出し、振り返った。
それだけが、包んでくれた。

世界は揺籠、眠る人々。
神がくれた薄い幸せ。
微睡む朝、同じ輝きの日々。
変わらない色、それでも疑問を捨てた。

深い眠りの中——聞こえる。

聞こえた気がした。

不意に夢から覚めて、もう一度振り返った。

そこにある砂時計を床に落とした。

光り出す、砂と歩く道。

世界は揺籠、眠る人々。

神がくれた薄い幸せ。

微睡む朝、同じ輝きの日々。

変わらない色、それでも疑問を捨てた。

輝いた今、虚光は消える。

空に振り翳した手に灯る。

眩く朝、変わり始める未来。

変わらない色、それでも歩き出した。

光りが飲み込まれる闇の方へ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3322/>

[痛ミ之少ナヲ世界]

2010年10月17日21時53分発行